

有機合成化学の若い力:みらい創造

一分野を超えて挑戦する有機合成化学

オーガナイザー

清水洋平(北大院理)
横江弘雅(星薬大)
寄立麻琴(九大院薬)

有機合成化学は、対象化合物の性質や反応性を理解し制御することで、有用な生物活性物質や未知なる有機機能性材料を創出することができる学問であり、薬学分野においては創薬研究の基盤となる重要な役割を果たしてきた。近年は、創薬に対するアプローチが急速に多様化しており、重水素化合物の利用、新規ナノカーボンマテリ

アルの開拓、未活用天然物の供給、ケミカルバイオロジー、新しい化合物ライブラリの構築など、周辺分野を巻き込んで“分野を超えた”化学を切り拓くことが求められている。

本シンポジウムでは、有機合成化学を一つの基盤として幅広い分野で研究に取り組んでいる、新進気鋭の5人の若手研究者にご講演いただく。優れた最新の研究成果と研究哲学を共有いただくことで参加者の視点を広げ、分野を超えた融合研究を後押しし、有機合成化学の“みらい”を創造する原動力にしたい。(清水洋平)

Frontiers in Synthetic and Medicinal Chemistry 2024

(化学系薬学会・医薬化学部会合同シンポジウム)

オーガナイザー

杉田和幸(星薬大)
市川聡(北大院薬)
石川勇人(千葉大院薬)
荒井雅吉(阪大院薬)

モダリティの多様化が推進される中で、低分子有機化合物や天然有機化合物が重要な分子群であることが再認識されつつある。一方で、新規化学反応の開発はますます活性化し、合成分子のケミカルスペースも拡張してきている。このような現状を積極的に生かし、既存の枠にとどまらない次世代の低-中分子医薬品創製に向けた研究を啓発することを旨とし、日本薬学会化学系薬学部会および医薬化学部会が連

携し、本国際シンポジウムを企画した。最先端有機合成化学と最先端創薬化学の接点にフォーカスし、4人の日本人講演者による英語でのシンポジウムを開催する。

本国際シンポジウムに引き続いて、有機化学分野の海外研究者としてAlois Fürstner教授(Max-Planck-Institut für Kohlenforschung, Germany)を招聘し、特別講演を行うこととした。4人の日本人講演者による国際シンポジウムと特別講演をジョイントさせ、最先端の有機化学を推進する薬学研究者が一堂に会する国際的な場を設けることで、本分野における薬学研究の発展・啓発に貢献することを目指す。

(杉田和幸)

金属錯体・放射線を利用する医薬品と

生体イメージングの現在と未来

オーガナイザー

青木伸(東京理大薬)
米田誠治(鈴鹿医療大薬)

白金製剤シスプラチンや大環状ポリアミンの金属錯体からなどの金属錯体や、無機化合物および放射性同位体を利用した薬剤の創製と生体イメージング研究は、創薬科学の重要な要素であり、開拓余地の大きい分野でもある。

そこで本シンポジウムでは、次世代の白金製剤の開発研究、放射線を利用する金属錯体とペプチドのハイブリッド型薬剤の開発と生体機能解明への応

用、無機化合物の放射線による癌治療薬と生体イメージングなどについて、最新の話題を提供していただくこととした。薬学研究者に加え、物理学者や製薬企業の方をシンポジストとして招き、金属錯体薬、放射線治療に資する金属錯体・無機化合物薬(診断薬・治療薬)に関する画期的な研究を紹介する。

薬学研究者を対象にこれらの成果を紹介するのはもちろんのこと、他分野の研究者を交えた薬学ならではの学際的成果を共有し、互いに将来展望を議論する。(青木伸)

女性のライフステージと健康:

薬学から見た新たな視点と展望

オーガナイザー

菅沼名津季(慶應大薬/bacterico)
中井大介(第一三共)
三宅正晃(大塚製薬)

女性の社会進出により、女性特有の健康課題に焦点を当てた研究はますます重要性を増している。現在、産官学が丸となり、生理、出産、更年期などの各ライフステージにおける健康課題に対する、ユニークな予防策や治療戦略の開発など、様々な研究が推進されている。女性の健康や治療をテーマにした基礎研究から始まり、特定の疾患に対する薬物治療研究、さらには薬

物の生体内における動きの性差を理解する薬物動態研究まで女性健康管理に関する包括的なアプローチが試みられている。研究結果をもとにスタートアップがサービスや製品を開発し、民間企業へと提供する産官学連携の動きも見られる。

本シンポジウムは、この重要な女性特有の健康課題に向き合う産官学の研究者たちが、各々の視点からの研究を紹介し、今後の産官学連携の可能性とその方向性に関する活発な議論を通じて「女性の健康」に関する薬学研究の未来を拓いていくことを期待する。

(菅沼名津季)

生活習慣病に関連する健康被害ならび

腎-心-血管系障害とカテコール-O-

メチル転移酵素(COMT)不全

オーガナイザー

飯島洋(日本大薬)
金崎啓造(島根大医)

生活習慣病に端を発し、高血圧や脂質異常などを経路して引き起こされる疾患、例えば腎機能障害、毛細血管障害、脳血管障害、心筋梗塞などは、現代社会の大きな課題である。その中でも、妊娠高血圧腎症などの疾病では、COMTの活性低下が一因であることがオーガナイザー金崎によって明らかにされている。われわれは、生活習慣病からもたらされる健康被害にCOM

T不全が関与していると考えているが、この見解はまだ一部の研究者の間でしか認知されていない。

本シンポジウムでは、COMT不全が関連する疾病の生理学的な検証や、COMT活性賦活化物質の探索、COMTの立体構造に基づく酵素活性調節物質の分子設計の可能性について紹介する。COMT不全に関心を寄せる研究者が増えること、製薬企業においてFirst-In-Classを目指す創薬標的の選定に携わる方々に興味を持っていただくことを期待している。

(飯島洋)

免疫医学やゲノム医学に基づく

最新がん治療戦略

オーガナイザー

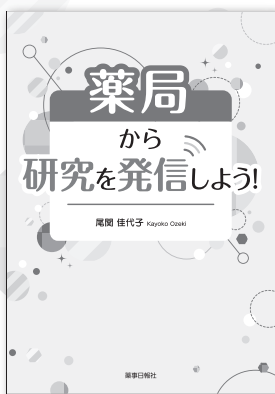
成田年(星薬大薬)
武田泰生(日本病院薬剤師会)

近年、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤の導入により、癌治療の選択肢が大きく広がってきている。また、癌細胞の特徴や遺伝子ゲノム情報を活用した個別化医療標準化の加速により、癌細胞特性に応じた有効な治療薬の予測・選択が可能となってきた。さらに、メチル化修飾薬などの癌エピゲノム研究を基盤とした次世代型の新規治療薬にも期待が寄せられてい

る。このように、癌患者の病態生理をより詳細に把握し、患者のQOLの向上や癌治療の奏功性を高めるために、腫瘍免疫学や腫瘍ゲノム・エピゲノム学のさらなる発展が必要不可欠である。

本シンポジウムでは、腫瘍免疫学や腫瘍ゲノム/エピゲノム領域のプロフェッショナルであるアカデミア研究者より最先端の知見をご講演いただき、癌細胞サブタイプに適した個別化最新癌治療戦略について討論する。

(成田年)



薬局から研究を発信しよう!

著 尾関 佳代子(薬剤師、医学博士) A5判/158頁/定価2,420円(本体2,200円+税)

薬局薬剤師として活躍する傍ら、大学で研究を続ける著者の実体験に基づき、「研究を行う意義」「研究の始め方」「学会発表」「論文作成・掲載」などについてわかりやすく解説。

- 「疫学・統計」の基礎をやさしく解説!
- 研究の進め方をイメージできる!
- 論文掲載までのプロセスがわかる!

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<https://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>